

令和6年度 第1回奈良市社会教育委員会会議 会議録			
開催日時	令和6年6月26日(水) 午前10時から12時まで		
開催場所	奈良市役所 中央棟 B1 会議室		
出席者	委員	安藤委員、岡田和委員、岡田龍委員、加藤委員、紙家委員、小北委員、柴田委員、中村委員、能島委員、廣瀬委員 【計10人出席】	
	事務局	教育長、教育部長、教育部次長、地域教育課長、地域教育課課長補佐、生涯学習財団事務局長	
開催形態	公開(傍聴人0人)	担当課	教育部 地域教育課
議題 又は案 件	(1) 正・副会議長の選出について (2) 令和6年度社会教育関係事業について ① 「令和6年度補助金交付社会教育関係団体」について ② 「令和5年度社会教育委員事業実績」について ③ 「令和6年度社会教育委員事業計画」について (3) 奈良市社会教育推進計画に基づく事業報告について (4) 今後の社会教育の在り方について (5) その他		
決定又は 取り纏め事 項	(1) 正・副会議長の決定 (2) ①令和6年度補助金交付社会教育団体の承認		
議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等			
(1) 正・副会議長の選出について ・正議長に岡田龍樹委員が指名され、承認された。 ・副議長に小北委員が指名され、承認された。 (2) 令和6年度社会教育関係事業について ① 「令和6年度補助金交付社会教育団体」について【資料1】 ・補助金交付の承認にあたり、関連団体に所属する委員については一時退席の対応をした上、各団体及び事業概要の説明を行った。 ・社会教育に関する事業を主たる目的とする社会教育団体「奈良市PTA連合会」「奈良市子ども会育成連絡協議会」「一般社団法人ガールスカウト奈良県連盟奈良市協議			

会」「ボーイスカウトわかくさ地区協議会」及び「奈良ユネスコ協会」の5団体に対する運営補助の補助金交付を予定している。

【委員からの主な意見・質問等】

- ・これまで行政とタッグを組んで社会教育を推進してきた団体が補助金を受けていると思う。数年前に奈良ユネスコ協会が補助金を受ける際にも議論に上がったが、どのような理由でこれらの団体が選ばれたのか、今一度精査してほしい。
- ・他の補助金ではより厳しく使途を問われている所もある。会議資料をみるに次年度繰越金が多い等、これほどの補助金額が必要なのかといった疑問もある。
- ・繰越額そのものが多いのが問題なのではなく、どういう用途で使うつもりで計画を立てているのか等お金の性質を見ることが必要である。補助金に対してどれだけの活動費が使われているのかを見るなど、補助金が有効に使われているのか確認していく必要がある。

＜今後検討することを条件に、補助金交付について承認された＞

② 「令和5年度社会教育委員事業実績」について【資料2】

③ 「令和6年度社会教育委員事業計画」について【資料3】

- ・資料のとおりであることを説明した。

【委員からの主な意見・質問等】

- ・社会教育推進計画策定の際などに分科会（部会）などを活用していたが、今年はどうか。→今年度何か提言するといった話は聞いていないが、委員から検討すべきことがあるといったご意見があれば議論を行う必要がある。

(3) 奈良市社会教育推進計画に基づく事業報告について【資料4】

【委員からの主な意見・質問等】

- ・現在の事業評価では、会議で出た意見について事業所管課でどのように検討されて、どのように改善したのかが分からない。
- ・生涯学習という視点から教育委員会の枠組みを超えて事業を掲載したが、事業が多岐に渡ることによって一つ一つの取組を検証することは難しい。事業を絞ってどこかの部分に着目して、実態を知った上で効果を検証する場が必要ではないか。
- ・評価とは、事業やイベントの結果、その前後で成長したとか、行動に変化があったとか、日常生活が良くなったといった変化であるので、今の事業報告に評価という言葉を使うのは違うのではないか。
- ・各市の行政評価でも共通してアウトカム評価が十分できていないことが課題である。一方、行政側も事後評価のための資料作りなどに相当な労力を使っているものの、次の改善に生かされない等徒労感が大きいと推察する。すべての事業を網羅的に評価すると非常に事務工数が多くなるので、いくつか重要な事業に絞って、定性的な評価に加えて定量的な評価をプラスした形でアウトカム評価を実施していく方が、評価する意義があるし、改善効果も実感しやすいのではないか。

- ・ どういった効果があったかまで見ることは、できそうで中々できない。より伸ばせる部分、良い部分を育てていくという所にポイントを置いて、社会教育委員会議でバックアップし、事業を育てていくためにはどうしたらよいかという視点で一緒に考える等できれば、次につながる評価になるのではないかと。
- ・ この全体会議以外で検証する場を作るとなると、分科会のような形が必要。

(4) 今後の社会教育の在り方について【資料5, 6】

会議長より社会教育の人材育成について説明があった。また昨年度会議で提案し撤回した「今後の公民館の在り方について」事務局から説明した。

【委員からの主な意見・質問等】

- ・ 社会教育主事と社会教育士の違いについて
- ・ 公民館の在り方については、様々な意見があるので早急に結論を出すことは妥当ではないが、他市の情報も提供していければと思う。
- ・ 高校生にヒアリングした際に、高校生が公民館を使っているのかといった認識であることからして、また稼働率が3割前後という現状を見たときに、今のままの公民館の姿が良いとはいえない。公民館をどうしていくのかという大きな課題は抱えたままである。
- ・ 公民館の機能が何かを知られていない状態で議論が進んでいた。案によって何がどう変わるのか、その先どうなっていくのかをやはり考えていかないといけない。変わるとどうなるのか、他市の知見を知っていないと簡単に決めれることではない。
- ・ 今後の公民館をどうにかしていかなければならないという前提があつての実際の議論内容ではなく、公民館をつぶさないといった全く違う方向に話が行っており、ニュースや新聞を見て驚いた。
- ・ 昨年の社会教育委員の近畿大会や全国大会では、他市の公民館の在り方について話があり、行政職員自身が大会に出席した方がいいと思う研修であつたので、予算がないのはわかるが近畿大会へ出席し、他府県の情報を知ってほしい。
- ・ 今後公民館の在り方について議論は継続するのか。社会教育委員会議では、広い意味で奈良市における社会教育施設の一つとして公民館を位置づけることが主であり、その方針の中で公民館そのものの在り方については、別の審議体である公民館運営審議会が議論するという建付けになっているのだろうが、どこで話を展開していくのか筋道が見えにくい。昨年議会でも、どこの会議体でその話が出てきて、この話のできたのかといった手続きについて議論があつたと思う。→仰る通り公民館だけをこの会議体で検討するのではないが、計画には社会教育として位置づけられている施設の一つに公民館があり、それを含めた社会教育全体の在り方について、ご意見や議論いただきたいと考えている。行政が勝手に進めていけるような話ではないので、様々な方のご意見をいただき参考にしつつ、奈良市生涯学習財団とも協議を進めていきたい。
- ・ 社会教育委員会議自体がなんのためにあるのかを考える必要がある。全部を網羅する位置づけにあるが、重要な議題の際に議論できなければ社会教育をやっている意味がない。

- ・だから、たくさん取組がなされている中で、どれが重要であり、どれを続けていくのかという議論が関連してくると思う。いろんな人に活用してもらえる公民館の在り方というのをどんなものなのかということ、こういう会議やいろんな場で改めて考える必要がある。「公民館を残さない」とだけではなく、どうやって、だれが、どんなふうにという所も深めていかないといけない。あるだけではなく、そこで何をするのが議論に関わってくると思う。人も予算も限られている中でしっかり考えないといけないことだと思う。
- ・会議体ではなく、独任制である社会教育委員として地域にいる。予算にも限りがあるので、年2回の会議以外にも有志で意見交換のため集まるのはどうか。これからの段取りもしながら、どこから手をつけていこうかといった話しあいもできればと思う。皆さんが同意して頂けるのであれば、会議長として旗振り役をさせていただく。声かけさせていただいて、全員でなくとも都合が合った方々に集まっていただいて話をするので、事務局も参加してほしい。(委員承諾) →事務局もその際に出席させていただく。また継続的に議論できるように、会議以外の方法でも情報共有を行っていきたい。

<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(資料1)「令和6年度補助金交付社会教育関係団体一覧」 ・(資料2)「令和5年度 社会教育委員事業実績」 ・(資料3)「令和6年度 社会教育委員事業計画」 ・(資料4)「奈良市社会教育推進計画に基づく事業報告」 ・(資料5)「社会教育施設の指定管理者の指定について」 ・(資料6)「今後の社会教育の在り方について」
------------	---